

光背の仏陀と飛天（木造化仏・飛天）

重要文化財

鎌倉時代（1185～1333 年）につくられたこれらの彫刻には、座った仏陀と、飛天（仏教神話における天人または天女）が描かれている。これらの彫刻の起源は明らかではないが、研究者たちは、有名な仏師である運慶（1150～1233 年）が、興福寺の西金堂の本尊の後ろに設置されていた光背の飾りとして、これらの彫刻の製作の指揮にあったと考えている。西金堂が 1717 年に焼失したとき、堂内の工芸品は、手で運び出せるものや、大きな像からもぎ取ることができたものだけが救い出された。この仏陀の坐像と飛天はそうにして救出されたもののひとつだったのかもしれない。